

【厚生労働省】令和8年度 共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業

共生社会 フォーラム

in 長野 2026 [関東甲信越
ブロック]

福祉の思想に学び、実践し、語る人に

社会福祉法人育護会 浅間学園・さくらの杜育豊
表現活動 「あさまバンド」

／ 基調講演 野澤 和弘 氏
植草学園大学 副学長

2026(令和8)年 10月8日(木)・9日(金)

長野県障がい者福祉センター サンアップル (長野県長野市
下駒沢586)

※当日、サンアップルの駐車場は使用できません。駐車場は、長野日本大学高等学校富竹グラウンド駐車場をご利用ください。

定員100名 (一般参加 65名／企業向け研修 15名 [10/8のみ]) 参加無料
福祉職研修 20名 [中堅12名／学生・新任者8名(両日参加)] 【要申込】

※一般プログラムの基調講演(10/8)は、当日、Zoomでの配信を行います。【要申込】

主催 厚生労働省 後援 長野県

実施 公益財団法人糸賀一雄記念財団、共生社会フォーラムin長野開催委員会

[開催委員会構成団体] 社会福祉法人 高水福祉会、社会福祉法人 長野県社会福祉事業団、社会福祉法人 廣望会、
社会福祉法人 育護会、社会福祉法人 親愛の里、社会福祉法人 明星会

[後援団体] 一般社団法人 長野県知的障がい福祉協会

申込・問合せ 公益財団法人 糸賀一雄記念財団 HP <https://inclusive-society.net/>

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内

TEL 077-567-1707 FAX 077-567-1708 E-mail itoga-oubo@itogazaidan.jp

全ての国民が、障害をはじめとする生きづらさの有無によって分け隔てられることなく、人の尊厳の輝きを認め合いながらともに生きる共生社会の実現が求められています。しかしながら、社会の一部には、障害を有する方に対する否定的な意見や偏見が一定数存在することを踏まえ、共生社会を実現させるためには、その基本理念について福祉分野をはじめ広く社会に普及させる必要があります。誰もが等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるという理念等について学び、自らの実践につなげ、さらには所属や地域社会に向けて普及啓発していく人材の養成研修を組み込んだフォーラムを実施します。

コース

共生社会フォーラムは、大きく3つのコースに分かれています。

コース①・コース②は、共生社会や多様性に関心ある福祉業界以外の方もふるってご参加ください。

コース① 一般プログラム

対象:どなたでも

表現活動鑑賞や基調講演、 映像プログラム

表現活動を鑑賞し、基調講演では共生社会の実現に向けて先駆的に取り組みを推進する実践者からお話をうかがいます。映像プログラムでは、日本の障害福祉の父と言われる「糸賀一雄」の思想と実践について学びます。

***1日目14:00までのプログラムに参加**

定員 **65名**

(基調講演まで手話通訳あり)

コース② 企業向け研修

対象:企業経営者・管理職等

共生社会づくり リーダー養成研修

SDGsや多様性の求められる現代、誰もが働きやすい職場にしていけるのは非常に難しいものです。そこで、日常的にケアを通じて多様な人とのコミュニケーションを図っている福祉業界の技術や福祉の思想・視点を学ぶプログラムです。

***1日目14:15以降のプログラムに参加
コース①とダブル受講を推奨します**

定員 **15名**

コース③ 福祉職向け研修

対象:福祉職・学生

共生社会における 語り部等養成研修

津久井やまゆり園事件を契機に、福祉に携わる人々の資質や対話のあり方が問われています。対象別に2つの分科会(下部参加申込方法参照)にわかれ、共生社会の基本理念について考え、普及啓発のための語り部を目指すプログラムです。

***2日間すべてのプログラムに参加**

定員 **20名**

(第1分科会12名/第2分科会8名)

参加申込方法

裏面申込書(FAX/Eメール)またはウェブサイト(<https://inclusive-society.net/>)にてお申し込みください。

申込締切:令和8年9月24日(木) ※定員になり次第、締め切りとします。



いずれのコースも事前申込が必要です。裏面申込書(FAX/メール)またはウェブサイトの申込フォームに必要事項を記入し、お申し込みください。「**コース①一般プログラム**」と「**コース②企業向け研修**」に参加条件はありませんが、「**コース③福祉職向け研修**」は右の条件を満たす方が対象です。また、**コース③福祉職向け研修**参加者には事前に資料をお送りします。あらかじめ資料を読んで研修に臨んでください。

<第1分科会> 福祉支援語り部(中堅)

福祉職や教員および行政職としておおむね5年以上の現場経験を有し、職場で中堅職員、管理者等として職員を指導・助言する立場にある人。研修を経て共生社会の基本理念を職場内で実践し、語り広めることが期待できる人で、所属の施設・事業所、社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、学校長・教育委員会、自治体等から推薦された人。

<第2分科会> 学生・新任者

在籍する学部等を問わず、福祉に強く関心がある大学生等。または、福祉施設・事業所等に就職しておおむね数年以内の新任者や内定者。

※一般プログラムの基調講演は、当日、Zoomでの配信を行います。Zoomでご覧になりたい方は、参加申込書の参加希望コースの欄の一般プログラムにチェック✓いただき、備考欄に「Zoom希望」とご記入ください。後日、Zoomのアドレス(URL)をメールでお知らせします。

社会福祉法人育護会
浅間学園・さくらの杜育豊
「あさまバンド」

ことばを使わなくてもお互いが
分かり合えればいいよね。
音楽はそんな私たちのコミュニケーションツールになった。
「そうか気が付いたよ。私たちは表現しながら生きていて
生きることは表現することなんだ。」そんな表現と常に向き
合っているのがあさまバンドです。さあ皆さん一緒に認め
合う社会の旅に出よう!!



野澤 和弘 氏

植草学園大学 副学長

1983年毎日新聞社入社。2007年
から夕刊編集部長。2009年から
論説委員。障害・福祉分野に長く取り組み、現在も講演
活動などで広く活動中。主な著書に「あの夜、君が泣い
たわけ」(中央法規)、「障害者のリアル×東大生のリアル」(ぶどう社)、「わかりやすさの本質」(NHK出版)、「弱
さを愛せる社会へ」(中央法規)。



▶▶ 1日目 令和8年10月8日(木)

	コース① 一般プログラム	コース③ 福祉職向け研修
10:00 - 10:10	開会あいさつ	
10:15 - 10:55	表現活動「僕たちが世の光りだ!!」社会福祉法人育護会 浅間学園・さくらの杜育豊「あさまバンド」	
11:00 - 12:00	基調講演「かけがえのないいのちの発信 ～福祉の思想の伝え方～」野澤 和弘 氏	
13:00 - 14:00	映像プログラム NHKスペシャル「ラストメッセージ この子らを世の光に(※)」	
※コース①は、14:00で終了 コース② 企業向け研修		(14:00 - 14:15 会場移動・休憩)
14:15 - 17:30	ミニ講義＋グループセッション 福祉の世界に学ぶ講義(障害福祉を拓いた先人の実践と思想、ビジネスや企業経営に活かす福祉的視点等)および障害者や生きづらさのある人の雇用をテーマとしてPCAGIP(ピカジップ)法を用いた対話型のグループセッションを通じて多様な人とのコミュニケーションを学びます。	グループワーク研修① (第1分科会「福祉支援語り部(中堅)」 ／第2分科会「学生・新任者」) いずれの分科会でも福祉の思想・普遍的価値の共有を目的として、基調講演や映像プログラムを題材に、個人の内面に向き合うワークとグループディスカッションを行います。

▶▶ 2日目 令和8年10月9日(金) コース③ 福祉職向け研修 受講者のみ対象

9:30 - 12:00 コース③対象	グループワーク研修②(第1分科会「福祉支援語り部(中堅)」／第2分科会「学生・新任者」) 第1分科会では、やまゆり園での事件を題材に、「生きる意味のない命がある」「障害者は社会に不幸をもたらすだけ」という考えに同調する意見などに返す言葉をもつためのワークを行います。第2分科会では、元NHK Eテレ「バリバラ」のご意見番などで知られる玉木幸則氏とともに、「そもそも障害とはなんだろう?」をテーマに率直に語り合います。
13:00 - 15:00 コース③対象	グループワーク研修③(第1分科会「福祉支援語り部(中堅)」／第2分科会「学生・新任者」) 第1分科会ではグループワーク研修①や②を踏まえて、それぞれが自らの職場に戻って語りの場を持つことができるよう、メンターのサポートを受けながらアクションプランを作成します。第2分科会では、グループワーク研修②の議論を引き継ぎながら、玉木幸則氏とともに、「学生一人ひとりが抱える生きづらさ」を言葉にし、「福祉＝幸せの追求」や「そもそも人が生きること」について、向き合います。
15:00 - 16:00	全体共有・講評／まとめ・ふりかえり／閉会あいさつ

※ラストメッセージ この子らを世の光に

日本初の公的福祉施設「近江学園」設立に尽力した糸賀一雄と彼を支えた池田太郎や田村一二らについて紹介。障害のある子どもたちと寝食を共にし、生き生きと暮らす糸賀や職員たちの姿を記録した当時のフィルムに映るのは、まさに「福祉」の原点と言える。

